

## 令和6年度 小林市立須木小学校 自己評価書

4段階評価

4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営ビジョン		「自信を持ち、夢や希望をもった、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」～「学びたい」子ども「学ばせたい」学校・家庭・地域の集う学校づくり～【テーマ やればできる！できるまでやる！パワーアップ須木小】					
項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	実践事項	具体的な取組	自己評価 取組別 総合	結果の考察・分析および改善策等		
知育	基礎基本の定着及び主体的に学ぶ児童の育成 【学習成果を実感し、仲間と喜び、教えあえる学びづくり】 ア 基本的学習習慣の徹底と個に応じた指導 イ 家庭学習の確立 ウ ICT機器の活用 エ キャリア教育の充実 オ 読書活動の推進	アについて ○立腰・鉛筆の正しい持ち方の指導 ○基礎基本の徹底と学力の定着 ○個に応じた指導	○学習の約束に関する指導の重点化(立腰、鉛筆の持ち方)と継続的指導の実施 ○月1回のパワーアップタイムの時間の活用による学習内容の定着 ○1人1人の認知能力に応じた指導の工夫改善	3.2	3.3	○パワーアップタイムで、学習内容の振り返りを行い、基礎基本の定着を図ることができた。 ○今年度、NINO検査を全児童行い個人の認知能力に応じた授業づくりに取り組んだことで、個に応じた指導を行うことができた。 ●今年度の研究を通して、文章を正確に読み取る力に課題があることが分かったため、次年度はその課題解決に取り組んでいきたい。	
		イについて ○宅習ノート、タブレットの活用 ○基礎学力定着に向けた家庭との共通理解	○家庭学習の手引きの配布、見本となる宅習の掲示 ○タブレットの学習アプリを活用した課題への取組(長期休業中)	3.2		○家庭学習の手引きをもとに、年度初めに、家庭学習の取り組み方について指導を行った。また、家庭学習の内容が偏ったものにならないように、担任がアドバイスを送ったり、よい取組ができるノートを紹介することで取組の改善を図ってきた。 ●AIドリルの内容の検討を図り、効果的なドリルの導入を検討したい。	
		ウについて ○タブレットを活用した授業による学習意欲の向上 ○探究的・問題解決的な学習の推進	○デジタル教科書やタブレットの活用をした授業改善 ○パワーポイントや発表ノートを用いて、自分の考えをアウトプットしたり、フォームズでアンケートを作成し、調査活動を行ったりするなど授業におけるタブレット活用の充実	3.4		○タブレットは日常的、そして効果的に活用できている。子どもたちのスキルもかなり向上している。 ●メディアコントロールの指導について、家庭と連携した取組を行っていく必要があるため、次年度は非行防止教室や家庭教育学級等でも重点的に取り組んでいきたい。	
		エについて ○夢や希望をもった生き方の推進と外部人材の活用 ○地域との連携でのコミュニケーション能力の育成	○総合的な学習の時間における地域学習や福祉体験、学校行事での鑑賞教室や社会科見学、生活科でのふれあい体験活動等における外部人材の活用 ○5・6年生による「須木未来の提言」の紹介活動の実施	3.2		○「いろどりの里」の夏木政和さんをお招きし、いろどりの里を設立した経緯とその思いについて講話をしていただき、須木のよさを伝えていこうとする強い思いと自分の目標に向かって尽力する生き方について学ぶ機会となった。 ●外部講師の話を聞いて、子どもたちが自分の将来の生き方について考える機会を次年度は更に設定していきたい。	
		オについて ○読書100冊運動の推進 ○放送による本の紹介の推進 ○広い視野を持つための新聞記事の活用 ○図書館協力員との連携による図書室の充実 ○電子書籍の積極的な活用	○年間を通した読書100冊運動の取組 ○読書旬間の実施(年2回)※6月、11月(多読賞、読み聞かせ等) ○図書委員会を中心とした読書推進の取組 ○図書館協力員との連携による図書室の学習コーナー充実 ○学級文庫としてeライブラリーの積極的活用	3.4		○読書旬間において、多読賞の紹介や読書bingoなどの取組を行なながら読書量の向上に取り組んできた。また、教師や図書委員会による読み聞かせや校内放送によるおすすめの本紹介など様々な活動を通して、活字に親しみことのできる児童を育成してきた。 ○図書館協力員と連携を図り、授業に連携する本を準備したり、時期に合わせた調べ学習コーナーを設定したりすることで、図書室の活用が図られた。 ●eライブラリーについての活用はあまり見られない状況であるため、次年度は、県が取り組んでいる「ひなた電子図書サービス」を利用していきたい。	
		ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 【豊かな心づくり】 ア いじめの早期発見と解消 イ 郷土愛の育成 ウ 一人一人が活躍できる場の設定	アについて ○あのねアンケートとサポート委員会の確実な実施 ○報連相の徹底と家庭との連携の充実 ○人権教育学習の推進 ○教育相談の実施	3.1	3.4	○アンケート調査、教育相談、サポート委員会実施による、未然防止及び、いじめの早期発見・早期対応(保護者に対するアンケートも実施) ○外部講師による人権に関する職員研修の充実 ○「西諸みんなで人権を考える取組」「人権に関する参観授業」の実践	
		イについて ○地域人材を活用し、地域人材の育成を図る ○自然体験を活用した地域理解 ○須木の歴史や文化財を通じた地域理解 ○国際交流員を活用した国際理解教育	○教科や行事における体験活動や地域の人材を活用した学習の実施 ○地域の自然のよさを実感できる体験活動の実施 ○須木の文化財巡りの実施 ○CIRによる国際交流活動の実施(1.2年生)	3.6		○外部講師を招いて、オオムラサキに関する学習に取り組んだり、いろどりの里で体験活動に取り組んだりしたことで須木の自然のよさを十分に味わうことができた。 ○夏季休業中に地域ボランティアの方の協力で、須木の文化財に関する研修を実施し、須木の歴史や文化財にふれることができ、子どもたちへの指導に生かすことができた。 ●今年度、地域の方の協力で、田植え、稻刈り体験活動を実施し、子どもたちにとっては充実した活動となつたが、田を提供してくださった個人の方の負担が大きく、地域の方との交流も十分できなかつた。 ●今年度は天候に恵まれず、SUP・カヤック体験は実施できなかつた。また、担当の負担も大きいので、次年度は可能な限り地域の方の協力を得ながら取り組んでいけるようにしていきたい。	
		ウについて ○児童の活躍する場の設定 ○気づくり、考える力の定着 ○ボランティア活動の推進	○「みんなで○○する日」の実施 ○委員会活動や係活動における自主的活動の充実 ○朝のボランティア活動の推進と評価の在り方の工夫	3.4		○今年度は、「みんなで○○する日」の企画・運営をすべての学年の児童に行わせることで、自主性を育ててきた。 ○5・6年生が「プロジェクト活動」と命名し、「あいさつプラスワン運動」「下級生向けのICT講座」「生き物ふれあいコーナー」など、自分たちで考えて、須木小学校のために自主的に活動する姿が見られた。 ○毎朝、校長と一緒に朝のボランティア活動に進んで参加する児童が多く見られ、特に秋から冬にかけての落ち葉掃きは、子どもたちも毎朝、一生懸命取り組んでくれた。 ●校内だけでなく、地域へ発信できる活動にも取り組んでいきたい。	
体育	健常な生活を過ごそうとする児童の育成 【健やかなかからだづくり】 ア 早寝早起きの規則正しい生活習慣 イ 体育授業の充実 ウ 運動に親しむ児童の育成 エ 保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進	アについて ○全員登校100日 ○家庭との連携	○学校便りや保健便り保健室掲示での、心身の健康管理、生活習慣に関する情報提供 ○欠席した児童に対する、電話連絡や家庭訪問等の早期対応及び、SSWと連携した組織的対応	3.2	3.2	○保健だより等を通じて、健康面について保護者にお知らせするようにした。全員登校については、現時点で64日(1月31日時点)である。 ○通常登校が難しい児童に対し、遅れてでも登校できるように学級担任や養護教諭、管理職とSSWが連携を密に取り合いながら登校を促してきた。 ●学校では踏み込むことのできない家庭環境に課題を抱えるご家庭に対して、福祉課などと連携を図って対応していくことも考えていきたい。	
		イについて ○スクールスポーツプランの実践 ○タブレットを活用した授業の実践	○スクールスポーツプランの作成と授業等での実践 ○体力テストの実施と結果の分析、活用 ○タブレットによる活動の様子の動画、静止画撮影、授業への活用	3.1		○タブレットで動きのポイントやお手本の動画などを確認したり、自分の動きを動画で確認したりしながら運動に取り組むことで、主体的に学習に取り組むことができ、技能の向上につながった。 ●体力テストの結果を分析し、体力向上の取組を行っているが、小規模校の場合は個人の能力が大きく影響することから、急激に結果を向上させることは難しい。	
		ウについて ○体力向上週間の活用 ○昼休みの外遊び奨励 ○なわとび運動の取組	○タイム走記録会と練習期間の設定 ○体力向上週間ににおけるストレッチ運動の取組 ○外遊びの場の区分と体育館配当の見直し ○なわとびカードの活用	3		○今年度も、5分間で自分の走る距離を伸ばすタイム走を実施した。児童が自分の目標に向かって主体的に取り組む姿が見られた。 ○昼休みには、教師も外で児童と一緒に遊んでいることもあり、外でサッカーやドッジボールを楽しんでいる児童が多くみられる。 ○なわとびカードを活用した縄跳び運動に取り組んできたことが、体力向上につながってきていた。今後も継続していきたい。 ●柔軟性が低下している児童が多くみられる現状があるため、ストレッチ等の運動の取組を更に充実させていきたい。	
		エについて ○フッ化物洗口の実施と検診結果を活用した、虫歯治療率の向上 ○情報モラル教育と薬物依存防止教室の実施 ○安全点検の定期的な実施と危機管理意識の向上	○検診結果の配付及び受診が進まない児童、家庭への個別相談の実施、全児童に対するフッ化物洗口の実施、肥満傾向児童への健康指導の実施 ○警察と連携した非行防止教室の実施 ○月1回の安全点検の実施	3.4		○身体計測と各検査結果をまとめたものを、一人ずつ配布しており、一目で結果が分かるように工夫している。また、肥満傾向児童に対しては、定期的に体重を測定したり、保護者に対応を呼びかけたりしている。 ○外部講師を招いて、薬物乱用教室や非行防止教室を実施することができた。非行防止教室の中で、SNSでの被害について具体的に話していただけたことで、児童の注意喚起につながった。 ●虫歯治療を呼びかけてきたが、現時点で11名中4名が未治療の状態である。 ●次年度は、保護者も一緒に非行防止教室を実施し、保護者の意識向上につなげていきたい。	
食育	望ましい食習慣を身に付けた児童の育成 【望ましい食習慣づくり】 ア 食に対する指導の充実、食育の推進 イ 食事バランスの推進 ウ 年間2回の弁当の日と感謝集会の実施	アについて ○給食指導や学級活動における食育活動を通して、食に対する感謝の気持ちの醸成を図るとともに、食事のマナー、箸の持ち方を身に付けさせる	○外部講師による食育に関する授業の実施 ○給食時間での直接的指導と養護教諭による放送での指導の実施	3.2	3.3	○外部講師を招いて味覚の授業を実施した。実際に味わいながら、味覚について学ぶことを通して、食に対する関心を高めることに繋がった。 ○食事のマナーや箸の持ち方については、給食時間に直接学級担任が指導を行ってきた。 ●学級でも箸の持ち方の指導を行うが、一度身に付いたものを改善するのは、なかなか難しい。粘り強く、家庭の協力も得ながら行っていきたい。	
		イについて ○残食0 ○朝ごはんの推奨と欠食0	○学級通信や保健だよりの発行による啓発活動 ○全校朝会、学級活動での食に関する指導の実施	3.3		○年間を通して残食は少なく、児童も給食残食0の意識が高い。 ●保健だよりを通して朝食の必要性については啓発してきたが、朝食を毎日とっていない児童が見られる。	
		ウについて ○弁当日の取組 ○給食感謝集会における感謝の気持ちの育成	○長期休業における弁当日の実施(年2回) ○給食感謝集会と感謝の手紙の作成	3.3		○今年度は、弁当の日(弁当または食作り)を長期休業中に実施したことで、親子でふれあいながら食事づくりに取り組む家庭が多くみられた。 ○給食感謝集会を、1月に実施し、食に対する感謝の気持ちをもつて育むことができた。	
次年度の方向性についての校長所見		本校の課題である一人一人の学力の定着について、今年度は、検査等を踏まながら、より具体的に指導方法を検討してきたことで、一人一人のより具体的な課題が見えてきた。次年度も同じように一人一人の課題に向き合える学習を進めながら、自分らしい生き方を実現するためのキャリア教育の推進や広い視野に立って地域を見つめていくことのできるふるさと学習を推進していくことが必要である。また、将来にわたって自分の体力や健康を意識した取り組みを進めていきたい。					